

美しい校舎は 一人一人の美しい心から

六年前、私が初めて笠松小学校に赴任して来た日のこと。レシガ作りの校舎、子どもたちが育てている一鉢、自然いっぱい生き物いっぱいの中庭。春休み中で、まだ子どもたちがいるわけではないのに、伝統ある美しい校舎からは、日ごろ子どもたちが、生き物を愛し、校舎を美しくしている息づかいが伝わってくるようでした。

なぜ、一目見ただけで子どもたちの心が伝わるのでしょうか。その疑問は徐々に解決しました。美しく輝く廊下には、長年その場所を担当する子どもたちが、

かぜまつの子

笠松町道德教育連絡会議

「そつじ」
わたしは、にしわたりろうかの
そうじです。わたしは、ぞう



より美しくしたいという願いをもって掃除をする姿が賑々と受け継がれているからでした。
笠松小学校の三つのじまんの一つ「力いっぱいそのうじをします」には、社会に出て働くことの意義を理解し、実践できるようにと大切にできてきたことが反映されています。
今年の四月、二年生になったばかりの女の子がこんな日記を書いてきました。

きんをやっています。きょうはいつもやったことがないところまでぜんぶできてうれしかったです。

じぶんのでめあてをきめてやりました。それは「力いっぱいすみずみまでやる」ってきめました。できたらなんだかうれしくてやる気が出てきました。(あしたがんばりたい。)と思いました。

小学校で生活して、一年ちよつどの子どもたちですが、自分でめあてを決めて精一杯やろうとする心がすでに育っています。それが、六年生ともなると、使う人や全校のみんなの思いも考え、もつときれいにしようという気持ちにまで高まり掃除をしています。朝の奉仕活動にも取り組んでいます。

笠松小学校は伝統ある古い校舎ではありますが、美しく整えられた素晴らしい校舎です。それは、子どもたち一人一人が「よりよくしたい」と願う純粋で、美しい心できれいにしているからです。子どもたちの美しい心こそ笠松小学校のじまんです。



笠松小学校
道德主任

伊藤由起子

教育委員会
だより

「リズムあるくらし」

心と体の健康

「健康です」というとどういふ様子を思い浮かべますか。元気いっぱい走る姿、おいしく食事をする姿などでしょうか。では、次の様子はどうでしょう。

なつてでてくるというようになります。健康というのは、体だけでなく心も健康である必要がある。心と体の健康は関係が深いということです。

(心と体の健康4要素)



そこで、注目したいのは、生活習慣です。上の図で考えると、生活習慣がきちんとしているとAの身体的訴えやBの行動に直接影響します。

Aは、身体的な、Bは、行動に表れる不健康な様子です。Cは、不安な心の状態がでてきます。これも不健康な感じがします。Dは、意欲的で自信にあふれています。言い直すと「自己効力感」をもっています。この四つは、心と体の健康の要素です。そして、それぞれ関連し合っています。例えば、Cのように心に不安傾向を持っていると、Bの行動やAの身体的訴えと

では、Dの自己効力感はどうしたら生まれるのでしょうか。仮に朝食や夕食を家族でしっかり取るという生活習慣が付いているとします。すると、自然に家族との会話が増え、悩みを相談したりしやすくなります。これは、自信や意欲にもつながり、自己効力感が生まれます。ですから、心と体の健康の基礎は、規則正しい生活習慣にあるといえるのです。